

■令和6年度第1回会津美里町高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日 時:令和6年9月10日(火)18時30分~20時45分

場 所:会津美里町役場 2階 大会議室

出席者:15名/17名

事務局:4名 コンサルタント:3名

1. 開会

2. 町長挨拶

商店街がシャッター通りになる。わが町に特化したことではなくて、どの地域も苦慮してなかなか打開策が見えないのが現状だと認識している。皆なんとかかしたいと思っている。町に住んでいる方がどんな風に思っているか、賑わいを戻すためにはどうしたらよいか、町民の意見も聞きたいということでこの協議会を立ち上げた。昨年立ち上げた中でまちなかマルシェも発案していただいて、たくさんの人出があった。我々だけではそういった発想は出てこない。町民の皆さんがどう思っているのか意見が聞きたいという趣旨で始まった。いろいろ話をだしていただいてまちづくりにいかしていきたい。

3. 委員自己紹介

各委員自己紹介を行った。

4. 委員長及び副委員長の選出

委員長はI委員、副委員長はA委員となった。

5. 1)今年度協議会の活動趣旨

今年度の協議会の活動趣旨を資料に基づき説明。

○A 委員

民間が未来ビジョンをつくり行政が基本計画をつくとあったが、スケジュールはどのあたりからそれが始まるのか。

○事務局

やっていくことは同じだが、民がやることと官がやることをわけて最後に形にする。その中で次のワークショップから協議をやっていきたいと思う。ワークショップと去年までやったことを受けて、第2回以降、民からの意見として出していきたい。それをどう実行するかは町の方で検討する。

○P 委員

前はまちなか賑わいとあやめの湯とで別の委員会でやっていたが、今回はまとめて考えていくのか。

○事務局

最初は別に考えていたが、やはり町全体で考えないと機能がかぶることが出てくるため、一緒にした方が俯瞰してみれるということであやめの湯も一緒に考えることとした。

○P 委員

去年高田地域まちなか賑わいと両方参加していたが、まちなか賑わいの方は漠然としてこれやろうというところまで話が進まなかった。あやめの湯も100%これやろうとならなかった。トータルでやると話がまとまらなくなるのでは。

○事務局

いただいた意見を町の方で集約し、こういった形で実現していくと提案をしたい。それを皆さんと議論していただきたい。あやめの湯については観光施設、コミュニティ、スポーツ施設とあったが、それらを具現化するような提案をしていきたいので、迷走しないようにしたい。

○G 委員

去年いろいろな多岐にわたる意見が出た。産業振興課だけで決めるのは難しいと感じる。健康福祉や農業、子供のほうも巻き込んでいかないといけない。そういった課も連携していくのか。

○事務局

みなさまの意見、ニーズをどう反映させるか白紙の状態からスタートしていった。財政的なこと、期限的なこと、人的なことがまとまらずにいた。この4月から体制を整えた。各課長補佐たちが集まるまちづくり調整会議というものがあり、この中であやめの湯や旧高田公民館の件も提案して、すべての課の課長補佐と相談していきたい。そのあと課長会議もあるので、全町を巻きこんで、みなさんの意見を反映していくような会ができればいい。地域資源の活用であったり、持続可能な施設の検討、そしてみなさまへのフィードバックを含め検討していきたい。予算的な面も含めて方向性も示しながら皆様と検討していきたい。

○G 委員

この会はガチガチに固めないでいろいろな案をだしていくということでよいか。

○事務局

そうである。みなさまの忌憚のない意見が今後の町をつくっていくと考えている。

○B 委員

今回進めていくのは、去年の意見をベースに話あっていくのか、それを参考にしつつも新しい意見が出ればよいと町が思っているのか。

○事務局

基本的には去年のものをベースにやっていく。その中でプラスの意見があれば方向転換することも考えている。

2)昨年度の検討結果の確認

昨年度の検討結果の確認について事務局より説明。

○A 委員

高田温泉の提言書だが、3つあって幅を持たせたとあったが、3つすべてやるのか、どれかをやるのか。

○事務局

どれか1つでもいいが、複合的にできたらよい。3つ全部集約してできればよいが、施設の制限もあるので、できるところとできないところを選択していきたい。

○P 委員

温泉の利活用の委員になっていたが、3つは漠然としていた。例えば2番の未就学児や小学生以上の子供と高齢者を含めた大人が気楽に利用できる場、何をやるまでかは議論できなかった。この前テレビで見たが、例えば小学生が麻雀教室にいて、大人も年寄りもみなで麻雀をやっていた。スーパーの1室でやっていた。麻雀をやると子どもの知能指数があがる。高齢者も認知症予防になる。

漠然としているのではなく、例えばプールをつくったらどうだとか、温泉で日本一のサウナにするとか、そういう具体的な案をだしていかないと煮詰まっていけないと両方の会議に出ていて感じた。

○事務局

そういった具体的な意見をこの後のワークショップで出していきたい。それをいつまでにやっていくかを盛り込んだ計画にしていきたい。今まではどこの施設が活用できるかわからなかったが、今回はこの施設が使えると最初に伝え、ここをどういう風に使えばと考えれば具体的な話になってくる。麻雀は私もいいと思う、そういうものに昇華していければいい。みなさんも自分だったらどうするかを意見として出していければ、実りのあるワークショップになると思うので、よろしく願いしたい。

○Q 委員（代理）

あやめの湯でもスポーツ施設とあって旧高田公民館でも全天候型の健康運動施設とある。このままだと用途がかぶる。実現するときには片方になると思うが、今美里町で既存のものもここで求められていて、似たようなものがあるが活用されていない、それについての取り扱いとか、別の形で活用するとか、それは古いものとして反省をいかしていいものを作

りたいんだとか、機能が重複しないようにしてほしい。既存施設に対する議論は去年の会議でもあったのか。

○事務局

被らないようにあやめの湯も入れて、全体的に考えて集約していく、集約してより効果が出るように進めていきたい。

○F 委員

この会でこの場所はこれにしようとか、子供たちがあつまれる場所にしようとか、話し合ってきたと思うが、町としてやるのか、委託してやるのか、だれかにお願いするのか教えてほしい。

○事務局

その場所は公的な施設なのか、民間の施設なのか全部考えて、一番は民間が自分の力でやるのが自由度も高くこの先の採算性もとれ、望ましいと考える。それができないので行政にこういう支援をしてほしい等聞いてやっていく、プラスして考えていければと思っている。民間の場合はどんどん進んでいってかまわない。ただこういう支援があってほしいというのはこの会を活用して、その策が出るような提案をしていただければと思う。

○K 委員

高田地域まちなか賑わいが先かあやめの湯の利活用が先なのか。あめやの湯も大きな施設なので、民間にお願いする等でまちなかの方針が定まっていなとなかなか手を出しにくいと思ったので。

○事務局

あやめの湯がまちなかから離れているので先にそちらを決めていこうと考えている。ここを決めればまちなかにそれを補完するような機能ができると思うので、先にあやめの湯を考えていこうというのが現在の考えである。

○B 委員

なかなか具体性があるものが出てこない。ふわっとしていて。賑わいがなんなのかという共通認識を固めた方がいいのかなど。今後お示ししていただくでも構わないが。よく会津若松市の商店街の活性化をしようと思うと、60代70代の人には人がごったがえすように賑わいを復活させようとする。

しかし人口は確実に減っていく。昔と同じ賑わいを復活させるのは不可能。これから人口減少であったり少子高齢化の課題が変わっていく社会において、これからはどういったものが賑わいなのかを示して、まちづくりや事業を考え、みなさんで共有していけば、もう一段階踏み込んだ、より具体的施策が出てくると思う。そういったところもお示しいただければ思う。

3)高田地域の課題の再整理

高田地域の課題の再整理について説明（コムテック（コンサルタント会社））

○I 委員

伊佐須美神社は平日でも客が来る。中の人も大事だが、そのような客を引き込んで少しでも滞在してもらってそれがまちに流れ込んでいく。土台をしっかりとしないといけないと思うので、伊佐須美神社に来ている人たちにお土産を売る施設なり、あの辺に集約して、人を歩かせる、滞在してもらい、お金を落としてもらいのはどうか。そういう土台をつくってまちのなかに流れてもらうような仕組みが必要。そういう施設がないので、伊佐須美神社界隈で駐車したお客様がそこから歩いて買い物ができたり、天海上人の展示館なり、お土産買える、くつろげる、食べ物買える、施設の土台をつくってから客がながれていくような動線づくりというのにも必要だと思う。

○K 委員

空き家空き店舗をとりあつかっているが、所有者の話を知ると、どうにかしたいという気持ちはわかるが、賃貸だと8万、売買だと1千万以上が多い。そこを活用して民間の人がやれるかというの難しい。飲食店も会津の平均的な稼ぎとして15万とか、もろもろ家賃だったり光熱水道費引くと手元に残るお金はまったく少ない。そういう問題があるので、空き店舗を使うのは正直難しい。空き店舗を所有している所有者にこういう会に参加してもらって考え方を変えていく必要がある。マルシェのように一時的なスタイルだとそのような問題も解消されるし、売り上げも結構ある。出店したマルシェの人は次回も参加したいと言っていた。伊佐須美神社でも、カフェなどを神社の敷地内でやりたいから、そういう人がいたら紹介してとも言っていたので、先ほどあったように伊佐須美神社を中心にまず盛り上げて土台を作っていけたらと思う。

4)計画の基本方向について(案)

計画の基本方向について（案）について説明。

○K 委員

まず高田駅からセブンイレブンまでの距離。高低差が20mくらいある。歩くのは上り坂なのでつらい。以前観光系ツアーを実施した際に駅に巡回するバスが欲しいという意見があった。その辺はどう考えているか。

○事務局

駅からの距離が遠いというのは課題となっていた。解決手段としてデマンド交通があり、観光客も登録すれば使えるようにはなっている。ただ周知がされていなくあまり使われていない。只見や金山の方ではライドシェアで自動車をおいて観光客が自由に使えるようだ。

先日本郷においてトゥクトゥクという E バイクを導入した事業者もいるので、そういった E モビリティ、小さなまちに特化した E モビリティの活用も今後検討していく余地があると考えている。

○G 委員

住む場所なのかお客さんがたくさん来る場所なのか、観光客がたくさん来る場所に交流の場をもたせるのか。どこに焦点をあてて話を進めていけばいいかわからなくなってくる。100歳の人にアンケートをとって10年後こんなまちになったらいいといっても遅い。だったら子どもや若者にこのまちはこうなってほしいというようなことを聞いたらどうかと思うが、農業の人の活躍の場も来ていないとなると、どこに焦点を当てて話をすればいいのか分からない。

神社仏閣は人が来られる、お祭りという話もあった。私は早乙女踊りやっているが後継者がいない。そうすると子育てができる場所じゃないとダメだなと思う。ここも慎重にやってアイデアを出していかないと感じている。

○B 委員

去年話し合ったことがよくまとまっていると思った。高田らしさをいかすというワードで、先ほど伊佐須美神社の話題が出たが、高田らしさは伊佐須美神社だけではない。人を回遊させようのくだりでどうやって伊佐須美神社だけじゃない高田らしさを自分たちが再認識したり、来る人に味わってもらおうか考えたい。

○P 委員

13 ページの基本方針はコムテック（コンサルタント会社）が考えたのか。

○コムテック（コンサルタント会社）

昨年の議事録等読ませていただいて、町とも相談して6つの方向性としてまとめた。様々な意見が昨年出ており、それを実行していくための話を今年度するが、その間をつなぐ整理をいったんここでさせていただいた。

○P 委員

去年もアドバイザーの方がいた。例えば、資料に、1 番集える場所をつくろう、5 番人を回遊させよう、6 番続ける仕組みづくりをしよう、チャレジを応援しよう、などがあるが、コンサルは具体的に何をしていけばいいと、アドバイスをしてくれるのか。

○コムテック（コンサルタント会社）

次回以降ワークショップ等を踏まえて、今ここに出てきていないものも含め、具体的に高田でどれをやったら一番効果的だということと一緒に考えていければと考える。もちろんコンサルの意見だけでなく、町やみなさんと一緒に。

○P 委員

饅頭屋もお金払ってコンサルタントを雇って商売の方向性決めたり、製品開発したりコンサルティングしてもらうが、どうしたらいいかわからなくてコンサルタントの人に頼む。はっきりとこれがいいというのがなくてみな会議しているが、コンサルタントがこれいいよという具体例を言ってほしい。

○B 委員

それは私たちが話し合いたいなど。

○P 委員

去年1年間しゃべっていても具体的な子供食堂がいいとか出ても、人を回遊させようとか、集える場所を作ろうとか漠然とした意見しか出ていなかった。一年たっても煮詰まらないと思う。具体的な施設や、コンサルタントが今全国でこれが流行っていますよとか言ってもらって、それについて議論した方が、話が早いのかなと。

○B 委員

これまで国はまちづくり、地方創生いろんな指針を出してきた。何十年も前からいろんなものを出してきて、それが10年単位とかで方針がどんどん変わってきた。全国どこを見渡しても成功している地域はない。何かやって活気的に賑わいを取り戻せたとか人口が増えたとかはない。国は地域らしさをだせと言ってきた。これは何かというと地域に住んでいる人達が地域のことを考えて、この町にはこれがあるよねというのを地域の皆さんが考えましょう、というのが基本方針の1つである。

それは地方への丸投げだと思ったが、でも最終的に、例えば青森のアウガ、大型空き店舗に市役所入れてみたり、国から何億という補助をもらってつくって、そこに人がわっと来るかと思ったが結局それも破綻している。市もお金を出していたので市長が責任をとって辞めた。四国の一時期有名だった丸亀商店街はアーケードを広げすぎて、負債がたまってこの先破綻するのではないかというところまで来てる。

だからコンサルを否定するわけではないが、コンサルが提案するものがすべて正しいわけではなくて、たぶん何をやっても間違いなのかもしれないし、正しいかもしれない。住んでいる皆さんだからこそその目線で考えていただいて、こんなあったらいいよねとか、子供増えないとだめだとか、住んでみたいまちになろうよとか。人口のパイを取り合うわけではないが、美里町は面白いことやっているいいまちだと言って人が寄ってきて、賑わいを生むのも1つだし、観光客にお金を落としてもらうのも1つである。

賑わいの作り方はさまざまあると思うので、皆さん町に住んでいる人だからこそその目線で考えていけると、この会も有意義だと思う。町は民間がやることを下支えするのが本来の立ち位置であり、民間の人がどんどん活力を持ってやっていくことに関して、町が補助をつけたり、施策を打つのが本来の姿だと思うので、くっついていくという意識ではなくて、住んでいる町民の皆さんが何かこういうのやろうぜ、だから町はこういう風に応援してよという風なものをここでお話をして、最終的には町長に提言を持っていくと思うが、そんな会

にしたいと思っている。

○J 委員

第2回の前に集まるのはいつか。

○事務局

あやめの湯のワークショップを10月上旬に予定している。

○J 委員

今あやめの湯がどういう状態になって、どこが活用できるかわからないので、それを見ないことには意見もいえない。そのときに見せてくれるのか。

○事務局

現地で実施するのはそれも踏まえてである。自由参加なのでみなさんぜひ広めてほしい。ここの方以外も参加可能になっている。

○N 委員

昨年の方は14ページの③④がメインであった。やはり伊佐須美神社に人が来るからと①番が入ったと思うが、昨年度は門前町通りはなかった。門前町通りを入れた理由を聞きたい。1つは③④に人を入れるルートだからなのか、マルシェやイルミネーションをやっているから入れたのか、もしくは門前町通りというと美里蔵さんなどがあるから、ここに賑わいを持っていくということか。

○事務局

マルシェの影響が大きい。またどこに注力していくかアンケートを採ったところ、回答の約3割が伊佐須美神社周辺だったため、町民もそこに注力することには納得すると考えられる。マルシェが成功した例もあり、大通りの方にも動線としていけるのではないかとのご指摘もあったので、ここも活用できたらと考え、伊佐須美神社から広げた。マルシェはあやめまつりと連携したため、多くの人が集まった。横町から大通りにつなげるためのマルシェも10月にも開催予定である。必ず門前町でやるというわけではなく、いろんな場所でやったらどのくらい人があつまるのか統計的なところの検討もあるということを理解してほしい。

あと401号線でやったマルシェについては通行止めができなくて横断をしてしまう、危険だという意見もあり、横町通でやってみた経緯もあるので、いろいろなことを試しながらやっていきたい。

○N 委員

401号線だと両側に歩道があるので通行止めをしなくても空いているところでやっていけるということであった。門前町通りだとたしかに空いている駐車場などを使っており、あやめ祭りや連動させたマルシェはすごく人出があつてよかったが、歩道がないので、人が車道を歩いていた。キッチンカーも結局車道に並んでしまうのを一所懸命の人が白線の

中に並んでくださいと言っていたが、結局並んでいる人を追い越すために車道に出るので、どっちも良し悪しと思った。

○事務局

安全性を考えたもの、集客性を考えたものいろいろ展開していきたい。今の意見はまったくその通りで、空いたスペースで開催するつもりであった。歴史的に見ても、昔高田では六斎市という6のつく日に市を開催していたが、それにあわせて門前町でも市を開いていたという。401号線でやらなければいけないわけではない。どこでやるか固定するというよりは検討段階なので、時期や手法を考えていきたい。安全第一で行うことも必要なので、ご理解いただきたい。

○I 委員

高田駅前周辺だが、柳津とか七日町のようにJRとの協議も必要だが、トイレも非常に悪い。だから駅庁舎と一緒に高校生が休めるコーヒーでも飲める、ちょっと食べられる、民間委託になるかわからないが、そういうような施設。トイレもきれいにする。町の玄関口なのでこの辺の賑わいは重要と思う。JRと協議して観光施設を置くなり、まちなかに自転車を貸し出したり、いろんなことができると思うので、そのような検討もどうかと思う。

○事務局

柳津が先進地で、JRとやっているのを参考にする。県の方でも只見線の活用をやっているのを協力してできるところからやっていきたい。

○G 委員

こんなに町のこと考えてみんなでいい意見だして町長まで参加されて、これを決めるのは議会。議会の人聞きに来ないのはもどかしい思いをしている。

○事務局

本日協議会を開催することは議員には伝えていない。議事録をアップしているが、議事録は議員も注目している。こういう意見が出ましたというのは後日アップされるので一般質問があがってくる。方向性の方も十分検討している。例えば、今後ワークショップを開催する予定だが、議員の参加を呼び掛けてご意見をいただきたいと思っている。

○C 委員

11ページの4の高田らしさを活かすのところの、高校生の居場所や活躍の機会を提供できないかのところで、高校生の活躍の機会によって地域が活性化した事例はあるか。

○コムテック（コンサルタント会社）

実際に高校生が空き店舗を活用してたまり場みたいところを作って、運営したり、継続して使っている事例がいくつかある。若い人がまちなかにいる、高校生の自由な雰囲気伝わっていくような感じがあるので、高田地区でも西陵高校とタッグを組めたら面白いのか

など思う。

○C 委員

高校生が主になって運営しているのか。

○コムテック（コンサルタント会社）

後ろではきっと商店会の方やまちづくり会社など大人が動いているが、運営をやっているのは高校生。具体的な事例を今度お示ししたいと思う。

○P 委員

会議が2時間あるので1時間やったら5～10分の休憩が欲しい。休憩時間に雑談のなかから言い合いが生まれることもある。マイクを通して皆の前でしゃべると緊張して恰好つけて話さなきゃいけない雰囲気になって固くなっちゃうので。途中1時間くらい経ったら休憩して雑談みたいな感じにしたい。町長もいらっしゃっているのです。

○事務局

今後はいいタイミングで休憩を入れていく。

○O 委員

駅前の高校生の居場所がない。例えば空き店舗とか、磐梯町では空き店舗ではないが交流館に小学生や中学生が勉強できる「まなびときばんだい」という、勉強を教えられる人が常駐していて、そこで宿題をやったりする場所がある。そういう場所がどこかの店舗を利用して待っている間に勉強できる場所があれば。磐梯町でマルシェではないがちょうどハロウィン時期にスタンプラリーで町の中を歩くというイベントがあった。それが商店街で普段は入らないお店に入るきっかけになった。お菓子を用意したり、気合いを入れている商店街の人もいた。子どもたちも楽しみながら、普段歩かないところを歩くのがよいと思った。

○L 委員

いろんなところにベクトルが向くような感じで、方向性がある程度決まらないと向かっていけないのかなと。かぎられたエネルギーなので。もう少し方向性を決めていければと思った。

5) エリア別ワークシートについて

エリア別ワークシートについて説明。

○O 委員

美里町のイメージとして駅伝がある。マルシェと例えば子供たちのかけっこ競争みたいなものを一緒にやれば人が集まると思う。

○B 委員

この会はマルシェで落ち着かせるということなのか。

○事務局

マルシェが成功したのでそれを活用できないかという提案と次回のあやめの湯の利活用は今スポーツ施設と言っているが、他には何かないかということで意見をいただきたい。

○B 委員

先日も仙台から大学生が来て中心市街地活性化の勉強してるんです、卒論書くんです、話をきかせてほしいと言って来たが、日本全国成功している事例はない。もちろん美里町も10年前と比べ寂しくなってると思う。寂しくなっていくのは当たり前のことだが、少しずつソフトランディングできる施策が今必要なのではないかと思う。これまでいろんな地域がいろんなことをやってきている。素晴らしいなと思うこと、お金のかかること、ソフト事業でお金のかからないところ、様々あるが、どこも成功していない。逆にいうと、何をやっても成功しないということは何をやっても怖くない。高田らしさを、地域が目線だけを忘れないでいただいて、次回以降具体的な意見を出してほしい。

○事務局

何をやってもうまくいかないのではないかという話があったので不安になったが、最後に何をやってもいんじゃないかという意見がいただけたので、よかったかなと思う。先ほど町から勇み足のような話がでて申し訳なかった。事務局としては多様性を尊重すること、さまざまな立場で皆さんが出てこられて、いろいろな視点から意見を言っていただいて、それを我々が公平に取り扱って行かなければと考えている。

優先順位をこれから設定していかなければならない。温泉の跡地をどうするか、門前町をどうするか、公民館の跡地どうするかという話をいただいたので、実現可能性や影響度に基づいて、優先するものを設定していく。

一番問題なのが予算化。こちらのプロセスを具現化していかなければならない。意見をもとにした施策案を作成し、予算を試算していかなければいけない。コストの効率化の分析、提案する施策がどれだけの効果を生み出すか、数値を示すことが我々側の提案である。忌憚のない意見がほしい。何がささるかわからないので、いろいろな意見をいただくことと、あとは資金調達も検討する。ここは我々事務局が自治体の予算だけではなくて、補助金や企業連携も視野に入れて探っていきたい。

委員の皆様からの提案を受け、関係各課が出席する調整会議、または課長会議で話をして、意見を集約してより良いものを実現させていきたいと考えている。本当はもっと意見をいただきたいところだが、次回のワークショップで、みなさんと一緒に考えたいと思う。

6. 今後の予定

事務局今後の予定について説明。

7. 閉会

A 委員より閉会のことば。

以上